

知識の素

宗教編

なんでん屋



知識の素

宗教編



目次

宗教と企業の違い

人生の勝利者

神様

誰でも偉人になれる

努力と自然体

神の根源

神は死んだ

天使は動物だった

理想の人間像

世界の天使たち

宗教と企業の違い

宗教は、古い考えに固執する。

新しい考え方が出てきても、必ず否定する。

過去のキリスト教やユダヤ教、イスラム教がそうだ。

キリスト教にしても、新しい考え方は、邪教と言い張ってきた。

その結果、キリスト教はすごい数の分派が出来上がってしまった。

要するに、新しい考え方や経典を書き換えるのが嫌らしい。

しかし、企業はそうでもない。

経営に行き詰れば、どんどん新しい考え方や経営方針を変えてくる。

古い考え方は、すぐ捨て去る。

これが、本来の人間のあり方だと思う。

宗教も、そうなってほしいものだ。

ただ、古い伝統は維持していかねければいけない。

それは、企業も同じ。

企業の伝統、いわゆる理念を変えてはいけない。

理念が変わっては、何の企業だかわからなくなってしまう。

だから、宗教の伝統と、企業の理念は、絶対変わってはいけないのだ。

宗教の伝統とは、人間の道德のこと。

人間の道德とは、モーゼの十戒のような、いわゆる戒律のことである。

「なんじ姦淫する事なかれ」とか、「嘘をついてはいけない」などである。

企業の理念とは、社会への貢献のこと。

人々の幸せのために、新しいしくみとルールを普及していく。

社会の発展のために、新しいものを作っていく。
などである。

宗教が統一されるには、各宗教の伝統、道徳を統一するしかない。

また、企業には道徳がないとおもっている。

企業に道徳が浸透すれば、悪い印象がなくなる。

すると、世の中が道徳と貢献の世界になる。

そうなれば、真の平和がやってくる。

モーゼの十戒について記す

(カトリックの場合)

1. わたしのほかに神があつてはならない。

2. あなたの神、主の名をみだりに唱えてはならない。
3. 主の目を心にとどめ、これを聖とせよ。
4. あなたの父母を敬え。
5. 殺してはならない。
6. 姦淫してはならない。
7. 盗んではならない。
8. 隣人に関して偽証してはならない。
9. 隣人の妻を欲してはならない。
10. 隣人の財産を欲してはならない。

戒律を守っている人を、なぜ嫌う必要がある。

立派な人だと思おうのですが・・・

日本では、戒律（道徳）を守ってない人に憧れるふしがある。

人生の勝利者

宗教を学ぶのは、人生の勝利者になるため

外国の勝利者に、無宗教者はいない。

過去に、無宗教者で偉人になった人はほとんどいないのが実情であるから。だが、宗教にはまるのもほどほどにしないと、貧乏になります。

神様

神様はいるか、いないか。

この論争については、終止符が打たれないだろう。

全知全能の神、この世の出来事をすべて掌握している。常識、法則、数学の公式、すべてのものが当てはまる。すべてを管理している神ならいるだろう。

おそらく、人間の感情を持った神ではない。

では、人の神様はどうか？

人類の祖先、アダムとイブの時代。

たとえば、アダムとイブのおじいさん。

この人なら、神様と呼んでもよいのではないか。

なら、現代の神はというと、善人の霊界人。

この人も、神様と言えるのではないか。

だから、神様はいてもいなくても、どちらでもよい。

人を力強く生きさせてくれるならば、それは神様だと言えるだろう。

誰でも偉人になれる

生きているうちには、なれないかもしれないけれど、死んでから偉人になれる要素は誰でも持っている。

だから生きているうちに、偉人になるための経験をしなければいけない。死んだら経験できないことは、いっぱいある。

そして、死んでしまったら、知識の渦の中で揉まれるだろう。

だから、知識だけでは賢者になれる。

知識は、共有できるからだ。

しかし、経験は共有できない。

経験は、肉体がないとできないことばかり。

スポーツも、肉体あってこそ。

身体が無いと、頭の中でのイメージトレーニングしかできない。

さまざまな場所へいき、見て聞いて感動しないといけない。

いろいろ考えて思い巡らせ、感動や嫌なことも記憶して経験を上乘せして行く。

そして死んでから、知識を他から得て、物事を極める。

そうして、名もなき大賢者になっていく。

何千年もかけて・・・

仙人が向いているかも。

努力と自然体

人間努力すれば何とかなると思っている節がある。

努力の道には、それなりの成果が出るようになってはいる。だが、その努力の道は何を持って判断したのでしょうか。マネですかね。

人は生まれる前から、使命を持って生まれてきます。

要は、その使命に気づくかどうかなのです。

その使命を知ることによって、人は突然、道が開けます。まわりが、霊界が、神様が後押ししてくれます。

今までの人生は、経験を積む為の路程。

経験しなければ、使命に気づきません。
子供を育てるように。

使命を知ること、努力をかけましょう。

使命を知れば、一気に駆け上がります。

使命を知ること、これが大切です。

神の根源

人はみだりに神様の名前を呼んではいけない。

「主の名をみだりに唱えてはならない」は、モーゼの十戒に出てくる言葉だが、ユダヤ教でもヤハウエの名はみだりに口にすることはならない。

イスラム教でも、主の名ヤハウエは口にせず、「アラー」と唱える。

Wikipediaで神の一覧を覗けばわかるように、世界には様々な神がいる。

誰もが、どの神を信じればいいんだよということ、混乱していることだろう。

結論は、どの神様でもいい、信じる神が一つであることだ。

日本には幸い、神様がたくさんいらっしゃる。

どの神様を信じるかは、あなた次第だ。

極端な例だが、経営の神様「松下幸之助」を信じる方もいるだろう。

ほかの神様を信じる方からすれば、失礼なやつと思われるが、それはそれでいいと思っている。

要は、信じる師匠もひっくりかえり、神様なのである。

これから五百年も経過すれば、「松下幸之助」も立派な神様なのである。

中国には、三国志で出てきた「関羽」という神様もいる。

この時代では、「関羽」はもう神様になっているのだ。

これが、現実！！！！

人間はこれを、人間の始祖、創世記から行ってきた。

独自論が入ってきたが、

今世界で呼ばれている神様は、過去に死んだ人間なのです。

おそらく、これは事実です。

神は死んだ

神は死なない。

神は死んだ人がなれるもの。

死んでいる神はもう死なない。

神は死んだという人。

嘘を言っている。

言いたいのは、悪は死なない！

それを、神は死んだとごまかしている。

でも実は、悪は死ぬ。

悪人は必ず死ぬのだ。

悪は死んで、霊界で地獄で悩み苦しんでいる。

救われることはない。

誰も助けにこない。

まわりは、生きていた時の悪の仲間だらけ。

人のことなんか助けようとしなない。

自分が助かりたいだけ。

それが、地獄！

生きている子孫にすごい人が現れ、地獄から救われる人もいる。

それもごく少人数だ。

すごい人は、偉人でも無理だ。なれない。

そのすごい人は、釈迦やマホメット、イエスのような人物。

誰でもなれるわけではない。

死を恐れず、心の戦いを克服したのみがなれる人物。

それを、救世主、メシアという。

救世主は、生きている人を地獄に送り込まないためにいる人物。

みんなを救っているわけではない。

救世主を全面的に信じた人が、地獄をまぬがれる。

この世は、そういう仕組みになっている。

さて、天国は本当にあるのだろうか？

地獄をまぬがれる門が、天国の門といえるのではないかと思えてしかたがない。

神と共に共生する世界、それが天国なのだと思う。

だから、いつも神と会えることが死んだ証であり、天国なのである。

天使は動物だった

動物にそそのかされ、人間は墮落した。

イブは蛇が動物や卵をたべる姿を見て、禁断の実（肉）に手を出した。それから、人間の罪が始まった。

もともと、禁断の実といわれているリンゴは、人間が始祖から食べていた果実だった。

聖書ではそれを、リンゴと似ている禁断の食料は食べてはいけないと書くところを、後の人間が禁断の実リンゴと解釈してしまったところに、間違いがあった。

人間は肉や卵を食べてはいけないなかったのだ。

それを神は、エデンの園にある禁断の実を食べてはいけないと、諭していたのだった。

それは、卵のことだった。

卵とは、これから生まれる赤ちゃんが詰まった生き物。

同じ生きとし生けるものを食べてはいけない。

それを神は人間に忠告したのだが、人間が約束を破ってしまった。

だから、動物から忌み嫌われ、人間は渋々エデンの園から出て行ったと解釈する。

これが、エデンの園追放の真相かもしれない。

聖書の言葉に、「人はパンのみに・・・」とも書かれている。

イエスの生き様には、パンとワインともある。

どちらも、植物から作られる。

聖書の言葉に、動物の肉を食べるといふ言葉があっただろうか。

ヤコブの言葉に、絞め殺した動物の肉は食べてはいけないとある。

動物が死んだ死肉なら、許されるのかもしれない。

どちらにしる、一度動物の肉を食べれば、死にそうになったとき、生きた動物を殺しても食べてしまうということだろう。

当然卵も食べてしまうということだ。

それは、肉・卵を食べると靈性（靈的性格）を失うという、神の忠告だったと言えよう。

理想の人間像

肉食系のパワーと草食系の霊性が合わされば、完全な人間になる。

肉食すれば、霊性を失う。

草食になれば、霊性を維持できるが、パワーは劣る。

そうすると、草食系に穀物の実が加われば、パワーは出るだろう。

穀物の実とは、米とか小麦。

肉食系、草食系に合わせて、穀物系も加えなければいけないだろう。

これが、理想の人間像となるはずである。

さらに果実系が増せば、完全な人間になる。

世界の天使たち

西洋の精霊は、人間と動物の形をしている。

悪魔も、人間と動物の間の体で怪獣だったりする。

日本では、人間と物の形だったり、いったんもめんのような妖怪の姿だったりします。

中国では、ワシの爪と指を持った想像の動物、龍が存在します。

西洋の天使は、人間にオオワシのような羽が生えています。

日本の天使は、座敷童のように妖怪の部類です。

要するに、各国にいろんな形をした天使が存在するわけです。

天使は、善とは限りません。

キリスト教では、悪の象徴サタンは天使長だったりするわけですから。

天使は、この世に存在するのでしょうか？

一説には、この世に生まれたことのない魂のことを、天使と呼ぶそうです。

それは、コウノトリが運んでくる赤ちゃんのことを言っているのかもしれないですね。

なんでん屋

healing_nan@yahoo.co.jp